大学教育センター 教学 IR 部 2018 年度活動報告

平成28年３月８日の規則改正により大学教育センター内に教学IR部が設置され，各種教学関連の情報収集・分析に関して企画，改善及び実施に当たることになった。本報告では，大学教育センター　教学IR部に関する設置の経緯，現在までの活動状況，今後の活動及び課題等について，概要を報告する。

1 教学IR部の設置の経緯

現在進行中の第３期中期目標・中期計画の実施プログラム【 10 】に設定している「教学マネジメントを強化するとともに，修得すべき能力に対する達成度を客観的に示す評価方法を導入し，学生の学びを保証する。また，他大学との連携により教育体制を整備・強化し，教育の質を向上させる。」という目標に向けて「教学に関する各種データの分析と可視化を図るため，平成 28 年度までに教学 IR (Institutional Research) 組織を整備・強化し，実証データに基づく教育改善及び学習支援の充実に取り組むとともに，教学 IR 活動の評価検証を継続的に行いながら，教育の質の向上につなげる。」という計画を立てている。

これに伴い，平成 28 年３月８日，山口大学大学教育センター規則の一部を改正し，大学教育センター内に教学 IR 部を設置するに至った。教学 IR 部では，次に挙げる５つの事項に関する企画，改善及び実施について業務を行うこととなっている。

(1) 教育活動及び授業改善の情報収集・分析に関すること。
(2) 学生の学修成果の情報収集・分析に関すること。
(3) 学生授業評価及び大学教育職員等自己授業評価に関すること。
(4) 自己点検評価及び外部評価に関すること。
(5) その他教学 IR に関すること。

2 現在までの活動状況

(1) の教育活動及び授業改善の情報収集・分析に関すること及び (3) の学生授業評価及び大学教育職員等自己授業評価に関することに関しては，従来から，教育情報システム (IYOCAN) により，学生授業評価及び教員授業自己評価や，授業担当時間の実績値についてデータ収集を行っており，毎月の教学委員会に実施状況の報告を行っている。また，各部局や教員等からのデータ提供依頼への対応も行っており，依頼に応じてデータの出力及び加工を行っている。

(2) の学生の学修成果の情報収取・分析に関しては，従来，成績分布表示システムにより学生個人と成績データの繋がりを完全に切り離した形で各授業における成績の分布を提供してきた。平成 30 年度は新たに，学生個人に紐付いた成績データの入手を行い，今後の教学 IR 活動の基盤となる匿名化された成績データの整備を行っている。

成績データ自体の分析は，試行を行っている段階である。例えば TOEIC と VELC に関する成績の相関や，共通教育英語関連科目および外部テストの成績について相関の分析等を行っており，各成績間の相関の強弱等から今後の分析における課題等について洗い出しを進めている。

英語カリキュラム改革の検証については，平成 30 年度前期に，学生授業評価の全学共通の５項目について初歩的な分析を試みたが，

個人と切り離された状態のデータであることもあってか，経年変化を見る限りにおいては目立った変化を見出せていない。

教学 IR を進めるにあたっては，各部局の要望等が重要と考えられる。このため本年度は教学 IR の強化のために必要となる今後の協力に向けて，教学 IR をテーマとした教育改善 FD 研修会を各学部で開催し，各部局の教員と教学 IR の推進方法や課題について意見交換を行った。

また，平成 30 年 6 月に高崎で開催された平成 30 年度国立大学教養教育実施組織会議及び事務協議会に出席した。この事務協議会でテーマの一つとして教学 IR が取り上げられており，他大学の状況について情報の収集を行った。

3 今後の活動及び課題

平成 30 年度，教育改善 FD 研修会により，各学部との連携を図ったことを基にして，今後，各学部と連携・協力し，各種教学関連の情報収集・分析に当たる予定である。

分析データに関しては，学部専門教育科目の成績データや各種アンケート調査等について，一元化することで分析環境の整備を図る必要がある。

現在，平成 29 年度から実施された英語カリキュラム改革の検証や，平成 25 年度から始まった新しい共通教育の検証に関する要求が挙がっているため，今後，これらの検証に関するデータの分析を進めていく。

英語カリキュラム改革の検証については，上で述べた英語外部テストおよび共通教育の英語関連科目の成績について更に詳細な分析を行う必要がある。現在，平成 30 年度の試行的な措置として一部の学生に TOEIC を年度途中と年度末との合計 2 回受験してもらっている。更に，平成 31 年度には全 1 年次生に対して TOEIC の年 2 回受験を拡大予定である。この実施による成績の変化について，年 1 回受験と 2 回受験の学生の比較，実施前後での比較等を行う予定である。これらの取り組みにより，1 年次の英語教育を通した成長実態に関して分析を進める。

新しい共通教育に関する検証は，共通教育科目の各科目間について成績の相関を調査中であるが，今後より詳細な分析を進める必要がある。検証の材料としては卒業生満足度調査等，成績以外の材料も検討すべきかもしれない。

成績データを匿名化した個人に紐付けした状態で分析・可視化することにより，これまで見落とされてきた様々な問題に対する気付きが生まれる。一方で，分析結果の独り歩き等も懸念されるため，その取り扱いについては慎重な議論が必要である。

文責：大学教育センター　講師
教学 IR 部　　岡田　耕一